

新大広報

2016年
卒業記念号



No.198

特集1 卒業生・修了生からのメッセージ

新たな人生に向けた 旅立ちの時

～ここで得た絆を胸に、それぞれの未来へ～

特集2 退職する教員からのメッセージ

学びへの情熱を 次の世代へ

～新大生の成長と活躍を願って～

学長からのメッセージ

卒業後のつながり
～CAMPUS INFORMATION～



新潟大学長

高橋 姿
TAKAHASHI Sugata

平成28年の春に新潟大学を卒業される皆さん、
大学院を修了される皆さん、
ならびに新潟大学を退任・退職される方々に、
心からのお祝いを申し上げます。

卒業・大学院修了を祝して

今年も、たくさんの前途有為な卒業生及び大学院修了生を本学から送り出すことができますことは、我々新潟大学の教職員にとってこの上ない喜びであるとともに、誇りであります。

仲間たちと共に学び、研究に集中した日々、課外活動における辛かったことや嬉しかったこと等、新潟大学での沢山の思い出を胸に、大きな夢と希望を持って明日からの新たな一步を踏み出してほしいと願っています。

我が国の状況を見れば、政治・経済分野でようやく少し明るい兆しは見えつつありますが、まだまだ先行きは不透明です。加えて、東日本大震災と引き続いての原発事故からの復興・再生は、まだまだ途上であり、全国的に様々な影響を及ぼしています。また、昨年も、集中的な豪雨による大水害、火山噴火等の自然災害により、多数の犠牲者を出しました。世界的なエネルギー問題、環境問題、テロ事件等、多くの問題が国内外各所において発生しました。

近年における社会構造の急激な変化は、求める人材像にも大きな変化を生じています。即ち、世界のどこの地においても活躍可能な視点や技能を持つグローバル人材です。さらに、新たな技術や事業の創出ができるイノベーション人材です。それは経済界・産業界だけにとどまらず、社会のあらゆる領域においても同様です。

このような時代に社会へ飛び立つことには、期待と同時に不安もあるかと思います。しかし、皆さんには、本学で学んだ、広い視野と教養、高い専門的能力、そして若さという強力な武器があります。自信をもって新しい社会で行動してください。活躍の場はそれぞれ違っていても、これまでに学んだことを存分に活かして、いかなる困難にも正面から臨んでほしいと願います。

皆さんの前途に幸多いことを祈ります。



Niigata
University

退任・退職を祝して

この度本学を退任・退職される教職員の皆様には、それぞれのお立場において長年にわたり本学の発展にご尽力いただきました。心から感謝の意を表するとともに、無事の退職を心よりお祝い申し上げます。

今年は4月より、いよいよ第3期中期目標・中期計画期間となります。第3期においても国立大学法人をめぐる一層厳しい状況が予想されますが、皆様からいただいた絶大なご支援を糧に新潟大学は一層の発展を目指したいと思います。本学は、その使命である教育・研究・社会貢献の一層の充実に努めて参ります。皆様におかれましては、これからも本学への変わらぬご指導、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

平成18年4月に、新潟大学の発展と会員相互の親

睦を目的として、「全学同窓会」が結成され、昨年には

10周年記念式典が執行されました。今後も本学との懇

談会、交流会、講演会など活発な活動が行われます。

皆様には同窓会活動を含めた様々な形で、引き続

き新潟大学に対しご支援とご協力をお願いいたしま

す。どうぞ折にふれて新潟大学を訪れ、恩師、先輩、

同級生、同僚や教え子達と交流をお持ちください。

新潟大学は皆様の心の故郷として、いつも皆さんへ

の扉を開いています。

最後に、この度人生の区切りを迎え、新たな出発点

に立つ皆様方に、あらためて祝福申し上げますととも

に、健康には十分に留意されながら活躍いただくこ

とを祈念し、送別の辞とさせていただきます。

特集1 卒業生・修了生からのメッセージ

新たな人生に向けた旅立ちの時

～ここで得た絆を胸に、それぞれの未来へ～

卒業生・修了生の皆さん、新潟大学での大学生活はどんなものだったでしょうか？ 楽しかったこと。うれしかったこと。大変だったこと。一番の思い出は？ 皆さんの大学生活を振り返ってみてください。

Q1 新潟大学のここが自慢！

法学部
法学科

山田 ももこ

YAMADA Momoko

学生が思い思いの場所で力を発揮できる環境が整っている点が自慢です。私自身、交換留学や留学生との交流、地域社会との関わり合いの持てる部活動、白熱した議論を交わせるゼミ等から多くのことを学び、また、其々の場所で活躍する仲間に出会えました。



これからの決意表明

新潟大学での多くの学習や活動を通して、勉強面では勿論、内面的にも成長できたと感じます。今後はこの経験を活かし、これまで自分が与えられた環境や、身近な人への恩返しのできるよう、社会人として頑張りたいです。

経済学部
経営学科

平田 佳奈子

HIRATA Kanako

新潟大学の自慢は『人の温かさ』だと思えます。それを強く感じたのは、所属した生協学生委員会での活動を通してです。学生委員会で行った様々な企画は、何事にも全力で取り組む学生委員の仲間の力はもちろん、生協職員、学生、教職員のみなさんの多くの温かい協力があったからこそ、作り上げることができたと思います。この4年間、様々な場面でたくさんの温かい方々に支えていただきました。温かい皆様との出会いに感謝しています。



これからの決意表明

私は4月から、地元の富山県で社会人としての生活を始めます。学生とは異なる新しい環境に不安もありますが、社会人としての責任と感謝の心を大切に、日々成長していけるよう頑張りたいです。

理学部
化学科

金子 敦巳

KANEKO Atsushi

私が所属している理学部化学科は、学生の人数が少なく、講義・学生実験・卒業研究など様々な場面で綿密な指導を受けることができました。特に4年生になってから自分が配属された生物化学研究室は2年前にできたばかりの研究室で、研究はもちろんのこと、研究室の生活やイベントなどにおいても配属当初から中心的な役割をメンバー全員が担うことができ、多くの貴重な経験を得ることができました。新潟大学で4年間学べて本当に良かったです。



これからの決意表明

私は卒業後に新潟大学の修士課程に進学を予定しています。進学後はさらに一生懸命研究に取り組むとともに、社会人として必要となる能力も身に付けていけるように意識して毎日を過ごしていきたいです。

医学部
医学科

川井 洋輔

KAWAI Yosuke

日本全国から集まる同級生・先輩後輩・先生がいます。都会であり田舎でもある独特の心地よさがありました。また、医学部キャンパスの周りには文化施設が多くあることも魅力です。放課後に美術館へ、休日に舞踊やコンサートへ、街を歩けばたくさんの出会いがありました。テストが終わったら歩いて繁華街の古町へ向かいます。新潟の美味しいお酒を飲みながら友人と過ごした時間は大学生活の自慢の思い出です。



これからの決意表明

これからも多くの方々にお世話になりながら、謙虚に一つ一つ全力で取り組んでいければと思います。迷った時は大変な道を、自分のためではなく他人のためになる道を選ぶ人になるのが目標です。

医学部
保健学科

佐藤 光一

SATO Koichi

私が所属する医学部保健学科放射線技術科学専攻は、1年次は五十嵐キャンパスで2年次から旭町キャンパスで大学生活を送ります。専門科目を通して技師として大切な撮影技術や患者さんとの接遇を学び、それらを生かして4年次には大学病院を含めた県内の病院3か所所臨地実習を経験できる事は大きな魅力です。また、常に同じ教室で授業を受ける形なので、私たちのクラスは高校生の様な一体感があります。有意義なキャンパスライフを送りたい方はぜひ放射専攻に!!



これからの決意表明

現代の医療には欠かせない放射線をプロとして扱う職人になりたいという思いから本学部に進学しました。医師の画像診断を補助するために迅速かつ正確な撮影技術を養い、地元である石巻赤十字病院で奮闘したいです。



歯学部
歯学科

千田 正

CHIDA Tadashi

歯学科は学年人数が40数人ととても少ないため、とてもアットホームな環境であるということが魅力的なポイントだと思います。この人数で6年間のほぼすべての講義や試験などを乗り越えてきたので、チームワークは抜群です。また、学習環境も整っており、特に学生が患者さんを受け持ち、治療していく臨床実習では、各科の先生方からひとつひとつ丁寧に指導していただけるため、学生から研修医へとスムーズに移行できるような気がします。新潟大学で学ぶことができ、本当に良かったと思います。



これからの決意表明

ここまでくのに非常に多くの方に支えていただきました。私は、春から研修医として社会に出ます。そこで、今度は私が多くの方を支えることができるよう、精一杯頑張っていこうと思います。

工学部
化学システム工学科

押田 美沙

OSHIDA Misa

「挑戦できる環境」があることです。工学部には、学生が主体となって研究に取り組む「スマート・ドミトリ」というプロジェクトがあります。私はその中の一つである、学生フォーミュラチームでレーシングカートの製作に携わってきました。たくさんの仲間と協力しながらものづくりに挑戦し、それを「学び」につなげられる環境が新潟大学にはあると思います。また土地柄、美味しいお米やお酒を楽しむのも自慢の一つです!



これからの決意表明

春からは社会人として新しいスタートを切ります。今まで支えてくれた方々への感謝を胸に、新生活を楽しみたいと思います。誠実さを大切に、常に高い目標を持ちながら、立派なエンジニアになれるよう頑張ります。

農学部
生産環境科学科
宮竹 直之
MIYATAKE Naoyuki

新潟大学は産官学の関係が強く、様々な実習に参加できるという強みがあります。農学部ではインターンシップで官公庁や企業に就業体験ができます。社会人になるための責任感や広い視野を培うためには、非常に重要な体験だったと思います。その他にも農林水産省や、ゼネコンの方とダムや頭首工、排水機場を見学することで、新潟県における水利用の巧みを肌で感じる事ができました。こういった貴重な体験が自分の血となり肉となっていくのだと思います。



これからの決意表明

4月から新潟県の農業を支える仕事に就きます。新潟大学で学んだことを存分に発揮していきたいです。うまくいかないことがあっても、技術者として、責任感と広い視野を持ち、日々精進して、頑張っていきます。

大学院 現代社会文化研究科
博士前期課程
鈴木 潤
SUZUKI Jun

お題からは少しズレるかもしれませんが、大学院から新潟大学に入學し、新潟大学の先生方、職員の方々の手厚いサポートに感動しました。先生方には研究内容に関するアドバイス、進路についての相談など、様々な面で丁寧に指導いただきました。また、学部時代に在籍していた大学には研究内容に関する資料があまり多くなかったのですが、新潟大学にはたくさんの書籍が置いてあり、「どこから読んでいこう!」と興奮しきりでした。



これからの決意表明

博士後期課程に進学予定です。研究内容に関する知識を深めていくことはもちろんですが、今まで以上に「いろんなことに興味をもつ」ことを目指していきたいと思います。脱「食わず嫌い」!

大学院 自然科学研究科
博士前期課程
石井 伸明
ISHII Nobuaki

新潟大学の自慢と言えば、敷地の広さだと思っています。総合大学でありながら、医学部以外の全ての学部が五十嵐キャンパスにあるため、非常に広いです。この広大な校舎の中には、多様な自然があり、様々な形の建物があります。ふと気が向いた時に、いつものとは異なる通学ルートを辿ると、新たな発見が多く見つかり趣深いです。その中で、近道を発見したときなどは少し嬉しくなります。みなさんも、自分だけの少し特別な通学ルートを見つけてはいかがでしょうか。



これからの決意表明

大学では「様々」とか「たくさん」となどという単語で表現できない程、価値のある経験をし、かけがえのない人々と出会いました。この大学で得たことを活かして、更なる自分の目標へ向けて確実に進んでいきたいです。

大学院 保健学研究科
博士前期課程
山田 知佳
YAMADA Chika

保健学研究科は社会人に配慮したカリキュラムで、働きながら学べる環境が整っています。私は社会人5年目で大学院入学を決意し、働きながら通学した3年間でした。最初の2年間は長岡から通学し、最後の1年は新潟市内に転勤になったものの仕事に慣れずなかなか研究と向き合う時間をとることができませんでした。それでも頑張れたのは、先生方のご指導とゼミの皆さんから示唆に富む意見をもらえ、沢山の学びを得られたからだと思っています。



これからの決意表明

大学院での学びを自分の仕事である行政保健師としての実践に活かし、活動を研究的視点で評価し、まとめ、発表していきたいです。また、地域看護の専門看護師を目指すために新潟大学に戻ってこれたらと思っています。

大学院 医歯学総合研究科
修士課程
五十嵐 理沙
IGARASHI Risa

私は血液・内分泌・代謝内科で、糖尿病をはじめとした生活習慣病の疫学研究を行ってきました。管理栄養士でありながら、医師や他のコメディカルに交わって研究できたことを光栄に思います。他の栄養系の大学院では決して得られない学びが多くありました。また、新潟小児1型糖尿病キャンプに参加させていただいたことは貴重な経験でした。多くの医療スタッフや患児、医学生、看護学生と交友関係を築け、今では新潟での生活がより充実したものになっています。



これからの決意表明

4月からは、本学医歯学総合研究科博士課程に進学します。修士課程で培ったノウハウを生かし、管理栄養士の立場から、より医療現場に役立つ臨床研究のために日々精進したいと思います。

大学院 実務法学研究科
平野 恵
HIRANO Megumi

実務法学研究科では、新潟で実際に活躍する弁護士先生に実務家教員として、学生のサポートをしていただいています。より実務的な観点からの講義や、日々の勉強に対する実務家ならではの具体的な助言・指導はとても有益でした。実務家教員の皆様方との距離が近いことは、新潟県唯一のロースクールとしての強みであると思います。



これからの決意表明

大学院修了後も、司法試験に向けての勉強を続けていくことになります。不安は尽きることはありませんが、挫けることなく精進していきたいと思っています。

大学院 技術経営研究科
富山 文男
TOMIYAMA Fumio

技術経営研究科(MOT)は、ほとんどの学生が一般企業に所属する社会人です。講義の一環でもあるテクニカル・ビジットは、普段見ることのできない他企業の経営の実態をつぶさに見ることのできる機会として非常に価値ある有意義なものです。私も県内製造業でいろいろな部署を経験してきましたが、競合企業や専門領域の情報収集などMOTの講義を通じて、さらに新発見や新世界を体験できる絶好の場であることは間違いありません。



これからの決意表明

在学中に60歳になり、この3月に長男と同時に大学卒業です。まだまだ自己実現はできていませんが、MOTで出会った先生方や学生仲間との“絆”をいつまでも大切にしたいです。

Q1 新潟大学の
ここが自慢!





Q2 学生生活で大変だったけど乗り越えたこと

教育学部
学校教員養成課程
風間 学
KAZAMA Manabu



これからの決意表明

まずは教員採用試験合格に向け、勉強に励もうと思います。しかし勉強と並行して、社会人として職にも就きます。することが多くなりさらに大変になりますが、ここでも優先順位をしっかりとつけ、励んでいきます。

私が大変だったことは、「したいこと」と「しなければいけないこと」の両立でした。しかし、結局、私はこれらの両立はできませんでした。無理に両立しようと思えばどちらかが疎かになったからです。体はひとつしかありません。そこで私は「したいこと」を諦めることで乗り越えました。大学のうちにしかできないことはありましたが、優先順位を間違えていては本当の意味で有意義な大学生活を送ることはできなかったでしょう。

法学部
法学科
萬歳 愛斗
BANZAI Aito



これからの決意表明

4年間の大学生活の中で、切磋琢磨し合える仲間と出会えました。このことは、私自身を何事にも一生懸命に取り組む人間へと成長させてくれました。そうした出会いに感謝し、今後は社会人として一層精進していきます。

私は法学ゼミナール協議会のスタッフとして、新入生歓迎コンパやゼミ対抗バレーボール大会等の企画運営に携わりました。その中でも毎年発行している「法紀」という雑誌の編集作業は、企画立案から取材、構成までの一切を行わなければならない、四苦八苦しました。しかし、仲間たちと協力し合うことで、無事に完成させることができました。このことは、一つの形あるものを仲間と共に作り上げる達成感を学べた貴重な経験になりました。

経済学部
経営学科
布施 猛
FUSE Takeru



これからの決意表明

大学卒業に至るまで多くの人の支えがありました。「今の自分があるのは周りのおかげ」と感謝を忘れず、お世話になった方々・社会に対して貢献できる公認会計士を目指して、今後も自己研鑽に励みます。

学生生活で大変だったのは公認会計士試験の勉強です。私は試験勉強を始めた大学2年次から合格するまでの約2年間半、専門学校と大学で勉強の毎日を過ごしました。本試験・模試での成績や学部の勉強との両立で悩んだり、内定が出ている友達と試験勉強を続けている自分を比較して劣等感を感じたりもしました。そういう時、心の支えとなったのは同じ志をもつ仲間や親身になってくれる先生方の存在です。多くの人のご協力のおかげで挫折せず最後まで続けることができました。

理学部
生物学科
丸山 圭
MARUYAMA Kei



これからの決意表明

春からは新潟大学大学院に進学します。大学院まで進むことを応援してくれる両親に感謝し、先に社会に出る同期に負けないように、これからも研究に励んでいきたいと思っています。

私は大学でバドミントン部に所属していました。楽しくて続けたバドミントンですが、試合で勝てず練習もうまくいかずに悩んだ時期、ケガをして練習ができなかった悔しさなど、さまざまな困難も味わいました。しかし、まわりには同じ目標に向かってがんばっている仲間がいて、その存在に支えられて最後までやりぬくことができたのだと思います。部活で出会った方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

医学部
医学科
吉野 望
YOSHINO Nozomu



これからの決意表明

私は別の大学を卒業していましたが、身内の癌がきっかけで医師を目指し、本学に編入学しました。常に初心を忘れずに様々なことを貪欲に経験・勉強し、患者さんの立場に立てる立派な医師に絶対になります！

私はスキー部の主将を務めましたが、その時期にCBTやアメリカ留学と重なってしまい、しっかりと部を運営できませんでした。部員との衝突もあり、正直自分は主将を務めるべきではないと感じていました。しかし、助けてくれたのはやはり部員でした。幹部はもちろん、多くの部員の協力を得て何とか主将を務め終えることができました。今ではこの経験が自分を成長させてくれたと感じていますし、何より大切な仲間と出会えて良かったと感じています。

医学部
保健学科
岡村 望有
OKAMURA Miyu



これからの決意表明

多くの方々に支えられ卒業を迎えることができました。春からは新天地でのスタートとなります。学び続ける努力を怠らず、患者さんが健康をとりもどし、時に人生の再出発の支えになれるよう理想の看護師を目指します。

少しずつ確実に「できる」が増えていく看護学実習は毎日が充実していました。一方で辛かったことは患者さんの思いを全ては理解できない、と思った時です。疾患によって長い闘病生活を送る患者さんの思いが話を聴いてすっかりわかる訳ではありません。そんな「答えが出ない」悩みを抱えた時は実習メンバーと話すことで楽になりました。先生からも患者さんの側にいて、わかろうとすることが大切だと助言を頂きそれも忘れられません。

歯学部
歯学科
浜谷 桂佑
HAMAYA Keisuke



これからの決意表明

歯学部6年間で養ってきた知識や技術、また、臨床実習を通して感じた歯科医療の奥深さとやりがいを忘れずに常に勉強し、成長し続けます。そして、地域治療を通して、多くの人の健康を支えたいです。

新潟大学歯学部では、5年生から臨床実習が始まります。これは、他大学とは大きく異なり、専門診療科の先生方と相談しながら、担当患者さんの治療方針・治療計画を立て、学生が主体となって実際に治療を行って行きます。実際に患者さんを治療するために、常に責任と緊張に押しつぶされそうな1年間を送ります。しかし、仲間や先輩方、先生方に励まされ、また、患者さんの「ありがとう」が心の支えとなり、日々前進・成長することができました。

工学部
建設学科
木原 佑希子
KIHARA Yukiko



これからの決意表明

春からは社会人となり、新しい環境に不安も多くありますが、少しずつ今までお世話になった人々への恩返しができるくらいになりたいです。

私が大学生活で大変だったことは学科の授業でのグループワークです。4年間で模型の制作やまちづくりのイベントなど様々なことを行いました。時には、学内だけでなく外部の人と関わることもあり、自分たちの思うようにいかないことも多くありました。自分たちの意見を押し付けるのではなく、相手の立場に立つて考えることの重要性を学んだ気がします。広い視野で学ぶことができたことは今後に役立つ経験になったと思います。



農学部
農業生産科学科
伊藤 祐輝
ITO Yuki



個性的な人が多いから毎日刺激的です。新潟大学は9つの学部からなるので、人が多く、いろんな出会いがあります。北は北海道、南は沖縄、さらに留学生の方もいるので価値観の違いに驚きます。方言が伝わらなく、話がかみ合わないこともしょっちゅうです。講義中、指名されることを「かけられる」と表現することも方言だと大学に入って初めて知りました。常に新しい発見に追われる楽しい毎日です。

これからの決意表明

これからも遊び続けます。学生生活を終え、社会で働くことにももちろん不安はあります。しかし、新しい成長ができる生活が待っていることにわくわくもしています。これからも大学生に負けじと毎日を楽しみます。

大学院
教育学研究科
田中 彩
TANAKA Aya



新潟大学大学院では、人生の宝とも言える恩師と切磋琢磨する友のもと、自分の研究と目標の達成に全力を捧げることができました。1年目には、念願の短期語学留学を実現し、研究に加え、小学校の教員免許状取得のための授業や実習に取り組みしました。2年目には講師として中学校に勤務し、教員としての経験を積みながら、研究を行いました。常に新しいことに挑戦し、学び続け、出会いや発見の多い2年間だったと思います。

これからの決意表明

ここでの二年間があったからこそ、私は自分の夢を実現させることができました。今後は新潟県の教員として、大学院での経験や研究から得たことを授業に活かしていきたいと思います。

大学院 現代社会文化研究科
博士前期課程
侯 潔(コウ ケツ)
HOU Jie



2013年に初めて一人で日本に来ました。人生初めての留学を楽しみにしていた反面、新生活への不安もありました。今振り返って見ると、私にとって一番大変だったことは、やはりホームシックだと思います。特に酷かったのは、13年の年末、自転車に乗って家に帰る時に、転んで肘を怪我したときです。肘の痛みによるものが家族が恋しくなり、会えない辛さから思わず泣いてしまいました。でも、日本人の友だちができ、学校生活にも慣れてからは毎日楽しい日々を過ごすことができました。

これからの決意表明

人生の道では闇があるから光がある。そして闇から出てきた人こそ、一番本当に光のありがたさがわかるんです。私はこれを信じて、どんな困難にあっても、乗り越えようと、必ず光が見えると思っています。

大学院 自然科学研究科
博士前期課程
大井 志穂
OI Shiho



私には、大きな出逢いがありました。まずはLipschitz環です。大学院で、このBanach環を研究することになりました。当初は、全くわからない高層ビル街に一人落とされたような感覚でしたが、Lipschitz環を通して、次第に数々の数学を観ることができました。二つ目は人との出逢いです。魅力的で芯の強い方々の姿勢とその強さに感銘を受けました。数学が人情味あふれる生きた学問であることを教えて頂きました。思い返してみても大変だったと思うことは一つもありません。楽しくあつという間の学生生活でした。誠にありがとうございました。

これからの決意表明

出逢った方々のように、自分に正直に、常に全力で取り組みます。大学で学んだことを基礎とし、教員としても数学を学び続けます。そして魅力的で芯の強い素敵な人を目指します。

大学院 保健学研究科
博士前期課程
板垣 里奈
ITAGAKI Rina



研究における失敗です。特に私の研究は情報がまだ少ない領域で、実験目的の達成には器具や条件、データ解析方法等の多面で常に試行錯誤が必要でした。また、標本がデリケートで、手技の正確さや効率の向上も鍵でした。何度も失敗しましたが、反省点は見落とさず、実験の細かな再検討や、より適した器具の自作などの改良を重ね続け、ようやく目的のデータを得ました。このことから、問題解決には根気強さと創意工夫が重要であると学びました。

これからの決意表明

難病の解明のための研究に携わるので、知識を深めるために学び続けることや、技術を磨いて向上させていくことが、病気で苦しむ人々を一人でも多く救うための力になると信じて、今後も勉強に励み続けたいです。

大学院 医歯学総合研究科
博士課程
佐藤 弥生
SATO Yayoi



社会人枠での入学であつたため日常診療を行いながらの臨床研究に大変苦労しました。当初はテーマが決まらず焦った事、テーマが決まってからも、実臨床ではデータ数がなかなか集まらなかったり、データが集まり論文を書き始めても、集中して書くためのまとまった時間がとれず、休みの土日を返上して書き続けました。治療成績や画像所見を詳細に検討することは先々患者さんのためになるという事を信じ、そして、必ず学位を取るという強い意志を持って乗り越えました。

これからの決意表明

無事に修了でき本当に嬉しく思います。励まして下さった皆様、お力添え頂いた皆様、ご指導頂きました先生方に心から感謝致します。医学は日進月歩、これからも常にリサーチマインドを持ってより高い臨床レベルを目指し邁進したいと思います。

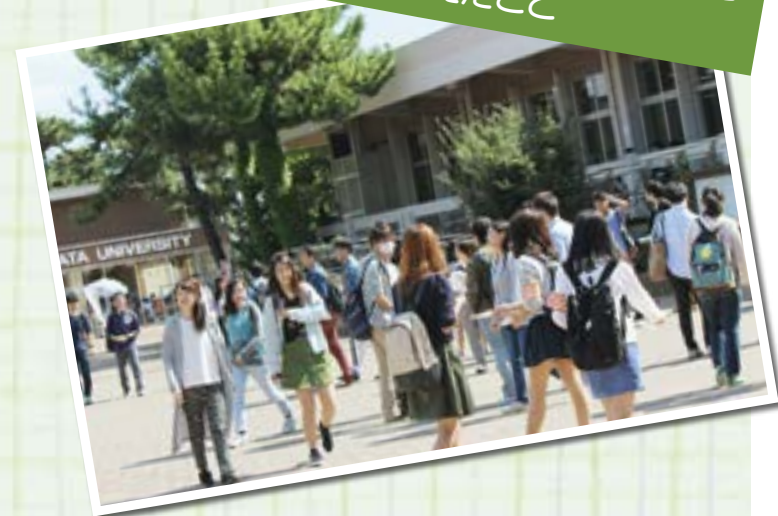
大学院 技術経営研究科
黄 岩(コウ ガン)
HUANG Yan



私はやはり周りの人に言いたいことがなかなかうまく伝わらないのと、それに対しての劣等感や自己否定のようなものが一番辛かったと思います。今も時々そう感じることもあります。しかし、それは一生懸命日本語の勉強する原動力であり、前向きに自己実現の一步でもあることを信じています。そして、日本人の友人や先生達が私の勉強の手助けをしてくださって、だんだん言葉の困難を乗り越えることができました。日本の社会に溶け込むことができ、本当に充実した毎日を過ごしました。

これからの決意表明

MOTに所属したことで、多くの社会人とめぐり合う機会が増えました。そのおかげで、社会人の視点で物事を考える能力が鍛えられました。今後、言葉の精通にはもちろん、考え方や仕事のやり方もなるべく日本人の気持ちを深く理解していきたいと思っています。



Q2 学生生活で大変だったけど乗り越えたこと

Q3 卒業するにあたり、 後輩へ一言



教育学部
学校教員養成課程
矢嶋 俊樹
YAJIMA Toshiki



大学は様々な人との出会いがあるので、楽しい場所だと思います。変なつながりからチンドン屋さんをやったり、地域のお祭りに参加したり、衛星の画像を解析したり、楽しい(?)ことだらけでした。様々な人と出会える大学生活!どうか人との縁を大切にしてください。

これからの決意表明

4月から長年の夢であった教員になります。辛いこともあるでしょうがへこたれずに、大学で学んだ専門性を十分に発揮できるように頑張っていきたいです。楽しむぞー! (^o^)!

法学部
法学科
捧 直太郎
SASAGE Naotaro



大学生活では、講義やゼミ、部活動を通して数多くの出会いがありました。目標を同じくする仲間たちと、部活動や公務員試験の勉強で切磋琢磨したのは、本当に貴重な経験です。目標を同じくする仲間がいるとモチベーションも上がります。もし、目標があるなら、同じ目標を持つ仲間を探したり、そんな団体に所属したりしていただくことをお勧めします。あなたの周りにはそんな人や団体が必ずあります。ぜひ、探してみてください。

これからの決意表明

講義で学んだ法的な考え方、部活で学んだ相手の立場に立つことの大切さを仕事に生かし、社会や組織、相手の要求に適切に応じることができる社会人となることを目標に仕事をしたいと思っています。

経済学部
経済学科
加藤 祐也
KATO Yuya



後輩に一番伝えたいことは目標設定とその達成のための計画、実践の大切さです。大学4年間という限られた時間で何を目指し、そのために何をしなければいけないかということを考えてほしいと思います。私自身、部活動で卓球部に所属し、普段から目標を持ち、日々練習内容を工夫し取り組んだことで、全国国公立卓球大会の団体優勝という結果を残すことができました。後輩たちにも大きな目標を持って有意義な大学生活を送ってほしいです。

これからの決意表明

春から秋田県の県職員として働くため秋田県の人口減少の問題や高齢化の問題など様々な問題に進んで取り組み、よりよい秋田県にしていけるよう尽力したいです。また卓球を続けてきたことを活かし、スポーツでも地域貢献していきたいと思っています。

理学部
地質科学科
飯田 圭輔
IIDA Keisuke



学生生活を振り返ると、新しい人との出会いや、知らないこととの出会いの毎日でした。様々な出会いが私を成長させてくれたと思います。皆さんもこれからさまざまな出会いがあると思います。小さな出会い一つ一つを大切にしていきたいです。どんな出会いもきっと貴重なものとなるでしょう。研究や課題など大変なこともあるでしょうが、出会いを大切に、学生生活を送ってください。

これからの決意表明

卒業後は地元を離れ、社会人として独り立ちします。不安や期待でいっぱいですが、大学での経験や出会いを糧に、さまざまなことにチャレンジし、困難を乗り越えて頑張っていきたいと思っています。

医学部
保健学科
高橋 彩佳
TAKAHASHI Ayaka



大学生活の中で印象的だったことは、専門分野への理解を高めるためトビタテ第一期生としてタイやラオスへ単身留学するなどさまざまなことに「挑戦」できたことです。何事も挑戦には不安が伴うものですが、その不安の殻を破ったことで多くの人に出会い、刺激を受けたことが私の一生の宝物になりました。皆さんも自分の興味のあることをとことん追究してより多くの世界を見て、感じて、一度きりの大学生活を楽しんでください。

これからの決意表明

4月からは新潟県内の県立病院で臨床検査技師として働くこととなります。自分の専門分野をさらに追求し、他の医療職の方々と協力し合いながら、日本の医療の発展に貢献していけるような臨床検査技師になりたいです。

医学部
医学科
太刀川 潤
TACHIKAWA Jun



6年間を振り返ると「やっておいて良かったこと」「やらなくて後悔していること」は多々思い浮かびますが、「やって後悔していること」はほとんどありません。それはおそらく、その時は失敗だと思ったことでも、そこから何かを学び、自分自身の成長に繋がっていたからだと思います。ですから、皆さんも少しでもやってみたと感じたことには是非挑戦してみてください。新潟大学にはそれをサポートしてくれる人がたくさんいますよ。

これからの決意表明

謙虚さを忘れずに、患者さんや家族の方、周りの医療スタッフから尊敬される医師になれるよう、日々精進していきます。医師として、人間として成長し、将来は新潟の医療に貢献したいと思っています。

歯学部
口腔生命福祉学科
有賀 彩乃
ARUGA Ayano



大学生活の4年間はあっという間です。その短い4年間で充実したものにするために部活やバイト、ボランティアなどに挑戦してみてください。私は様々なボランティアを経験しましたが、そこから将来に繋がる目標が見つかりました。部活では同期、先輩、後輩と良い仲間恵まれ、楽しい思い出がたくさんできました。大学生活は将来へと繋がる第一歩です。自ら積極的に様々なことに挑戦し、悔いのない大学生活を送ってください。

これからの決意表明

私は4月から大学院へ進学します。4年間の大学生活を通して興味が沸いた分野の研究をするため、勉学に励みたいと思います。大学生活に引き続き、ボランティア活動など様々な事に挑戦していきたいと思います。

工学部
機能材料工学科
青山 悠生
AOYAMA Yuki

中学高校とは異なり、大学では学生自身が時間割を決めます。休業期間もとても長いです。興味のあることに対して積極的に計画・活動をしなければ、あっという間に4年間は過ぎてしまいます。成果が出て出なくても、後悔のない学生生活を送ることを願っています。



これからの決意表明

大学4年間では、入学した当初では考えられないような様々なことに取り組みました。新しい環境では慣れないことも多いと思いますが、今までの経験を生かしてさらに多くのことにチャレンジしていきたいです。

農学部
応用生物化学科
流石 有希子
SASUGA Yukiko

この大学生活の4年間は本当にあっという間でした。振り返ってみると、大学生活というのは、自分の専門分野はもちろんのこと、それ以外の分野のこともたくさん学ぶ機会があり、自分次第で視野を広げることさまざまな体験をすることもできる貴重な4年間だったと思います。後輩の皆さんも積極的にさまざまな活動への参加や、大学生のときにしかできない経験を通して有意義な大学生活にしてください。



これからの決意表明

わたしは春から新潟大学の大学院に進学します。この4年間で学んできたこと以上に深く専門分野を学びたいという気持ちで院への進学を決めたので、その気持ちを忘れず、日々精進していきたいと思っています。

大学院
教育学研究科
佐藤 詩織
SATO Shiori

新潟大学は地域に根差した総合大学ということで多様な分野の人と関わる機会があります。私の専攻は美術ですが、異分野の友人からのアドバイスに助けられたことも多く総合大学であることが大いに活きたと実感しています。大学での交流・研究を通して、知識だけでなく考え方や価値観の幅が広がったことは6年間の財産です。今しか出会えない人との繋がりを大切に、何事からも学びとろうとする貪欲な姿勢で学生生活を過ごしてください。



これからの決意表明

春からは県外の企業に勤めます。これまでの学生生活とは全く違う環境になるので不安も大きいですが、新潟大学での経験を糧に「どんな状況も楽しみながらベストを尽くす」精神で前向きに挑んでいきます。

大学院 現代社会文化研究科
博士後期課程
張 博(チョウ ハク)
ZHANG Bo

「光陰矢のごとし」の言葉をつくづく感じさせた5年間でした。多くの方々のお世話なくしては卒業まで辿り着くことができなかったと思います。この5年間で振り返ると、インターンシップ、学会発表、国際交流活動やボランティアなど、数多く経験を積むことが私自身を成長させてくれた糧となったのだと思っています。これから大学生活を送られる皆さんが、貴重な経験や素敵な出会いがたくさんありますように心より願っています。

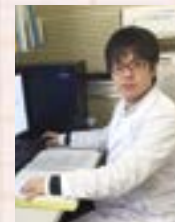


これからの決意表明

大学院生のとき、教員のティーチングアシスタントを担当し学部生に間違えられて「先生」と呼ばれることに少し照れくささを感じ嬉しく思いました。私はいつか教師としてこの教壇に立ち、学ぶ楽しさや喜びを学生に教えたいと思います。

大学院 保健学研究科
博士前期課程
久島 尚隆
KUSHIMA Naotaka

卒業に向けてそしてその後の人生において、これから多くの分岐点を迎えると思います。人生を変えるような大きな選択、小さな選択と数々の分岐点に立った時、自分の学んできたこと経験したことが生きてきます。大学生活は多くのことを学び、多くのことを経験できる最高の環境だと思います。そこで何が得られるかは一人一人にかかっていると思います。ぜひとも今後の残りの大学生活を有意義に送ってください。



これからの決意表明

来年度は医学物理士レジデントとして、新たな世界に飛び込みます。そこで多くの難題に直面すると思います。大学院で得た知識や経験を総動員して、将来医学物理士として活躍できるように努力したいです。

Q3 卒業するにあたり、後輩へ一言



大学院 自然科学研究科
博士前期課程
猪又 義広
INOMATA Yoshihiro

様々なことに挑戦できる学生生活ですが、それ故に迷い無為な日々を過ごしてしまいがちです。私はそんな時「せずにはいられない」と心の中で思ったことに集中して取り組みました。自分自身が欲し努力したことはなかなか忘れず、後に活かせる貴重な体験になります。長いようで短い学生生活ですが、どうぞ納得のいく日々を過ごせるようにがんばってください。私も僅かながらに応援しています。



これからの決意表明

春から働き始めるにあたり、新たに学ぶことがたくさんあると思います。大学で培った学びの姿勢を今後も忘れず、生涯を通してより多くの知識を身に着け、実りある人生を目指します。

大学院 医歯学総合研究科
博士課程
齋藤 直朗
SAITO Naoaki

私は医歯学総合研究科組織再建口腔外科学分野で大学院の4年間で過ごしました。研究ではうまくいかないことも多々ありましたが、分野の垣根を越えて多くの先生方にご指導頂き、非常によい経験を積むことができました。大学院進学を考えている後輩の皆さんには、自分が大学院という環境で何を学びたいのか、自分がどのような人間になりたいのかという明確な目標を持って進学して頂ければと思います。「興味」と「志」が何よりの原動力となるはずで。



これからの決意表明

多くの方々に支えられて、今の自分があります。これまでの経験をもとに、自分が医療、研究を通してどのような社会貢献ができるかを考えて、より一層の研鑽を積むとともに、自身の経験を後進に伝えていける人材になりたいと思います。



特集2 退職する教員からのメッセージ

学びへの情熱を 次の世代へ

～新大生の成長と活躍を願って～



前理事(財務担当)
副学長

金子 双男
KANEKO Futao

退任のご挨拶

平成28年1月末を以って新潟大学理事・副学長を任期満了で退任いたしました。昭和56年4月に新潟大学に赴任してから34年余り経過し、すでに65歳の定年年齢も超えました。この間、工学部電気電子工学科において半導体工学や電子デバイス、電気計測などを担当し、学部・大学院で多くの学生に出会うことができました。研究室では学生・院生と共に私自身が楽しみながら研究を進めることができ幸せでした。卒業生は、電気電子工学に関わる産業界や公的機関、大学などで活躍してくれています。そのことが私にとって一番の喜びです。学生時代に専門分野をしっかりと勉強して自分の核を作り、視野を広げ学び行動することが人間力を高め後で力になるはずです。在学生の皆さんは今この恵まれた貴重な時を大切に過ごして欲しいと願っています。教職員の方々には卒業生が新潟大学で学んで良かったと実感できる教育研究に向けた強化をして頂きたいと思います。

これまで自然科学研究科長、自然科学系長、工学部長などを拝命し、平成20年の大学院教育プログラム改組、グローバルサーカスなどの大学院プロジェクト、工学部の国際コンソーシアムによるFusion Techなどの事業採択や推進に協力することができました。平成26年2月からは高橋姿学長の下、理事・副学長として財務等に関わらせて頂きました。平成25年11月に国立大学改革のための「大学改革プラン」が示され、平成27年4月に「大学ガバナンス改革法」が施行され、6月には「国立大学経営力戦略」も示されました。平成28年度からの第3期では機能強化促進係数による交付金の減額を行いつつ将来ビジョンに基づく機能強化の方向性に合わせて交付金が重点配分されることになっています。国立大学を取り巻く状況は大きく変わっており、本学も国の方針・動向に合わせて平成27年度から「学長のリーダーシップに基づく資源配分改革方針」に従って予算配分を行ってきています。引き続き厳しい財政状況ではありますが、新潟大学の将来ビジョン・機能強化に基づく第3期での取組を通して新潟大学がさらなる発展を遂げるよう祈念しております。



教授
高木 裕
TAKAGI Yutaka

フランス詩ともに

昭和44年の大学紛争の真最中に、人文学部文学科に入学しました。フランス語の手ほどきを受け、高校時代から読みふけていたフランス文学を専攻し、とくにボードレールなど、象徴派の詩に夢中になりました。教員となったいまも研究の対象はフランス詩です。フランス詩が表現する世界は奥が深く、イメージの絡み合い、応答、対照、そして音韻の豊かな響きから、未知の世界が垣間見えてきます。自分の興味ある文学を研究対象にできたことは大変幸せなことだと思っています。私は学生時代から一貫して、自分の興味のあることにこだわり、なぜ、自分がそれに惹かれるのか、なぜ面白いと感じるのか、それを追究してきたように思います。学生の皆さんには探究心をだいにじにすることをお勧めします。そして、面白いと思うテーマを追究して、実り多い学生生活を送られることをお祈りします。



教授
橋谷 英子
HASHIYA Eiko

卒業論文

今年の卒論も無事提出された。専ら提出期限に遅れないようにとせかしかただけの気もするが、卒論指導も今回限りかと思うと少しほっとする。人文学部内の学生の所属コース名は「文化」で、「文学」とは言っていない。卒論のテーマも広く自由なはずだが、なぜか橋谷ゼミは中国「語学」をテーマにしなければ、「小説」で書くものと考えられていて、「小説」をほとんど読んだことが無くても、ゼミで取り上げた作品などを手掛かりに、何か少しでも引っかかる作品なり作家なりを探してテーマに選んでいた。中国の口承文芸専攻の私は、中国現代文学については、毎年、ゼミ生が選ぶテーマと一緒に学んでいったともいえる。素晴らしい卒論を仕上げた卒業生はもちろん、「論文」としては「？」がついても、作品を丁寧に読みこんだ、執筆者の苦勞の結果であるならば、大学生生活の総決算としては十分だろう。

それぞれの新しい世界をそれぞれが切り開いていくことを期待する。



教授
山崎 健
YAMAZAKI Ken

大学生活47年を終えるにあたって

1969年「大学紛争による入試中止」の年、幸運にも私の学部だけ入試が実施され「大学人」への第1歩が始まりました。当時は「何のため、誰のために学問をするのか」が問われた時代で、本年度退職される先生方も、何らかの形で「大学とは何か」を問うた(問われた)経験を持っています。大学3年生の時から現在の研究テーマ「人間の随意運動と運動習熟」に取り組み45年が経ちました。60歳を過ぎた頃から何となく「かたち」が見えてきたのかなと感じ、最近「あの文献をもっと十分に読んでおけば・・・」「もっと早く気付いていれば・・・」と思うことが多々あります。しかし研究や教育とは本来そういうもの、簡単に「ゴール」はできないのです。

学生・院生の皆さん、これからも挫けずめげず、自分への誇りと可能性を信じ、あちこち彷徨いながら皆さんの「ゴール」を模索して行ってほしいと思います。“One for All, All for One”



教授
佐藤 芳行
SATO Yoshiyuki

定年退職にあたり

新潟大学経済学部に着任した2000年4月から16年が過ぎてしまいました。私は主に近現代の欧州、特に西欧と東欧の比較史を念頭においた近現代経済史を専門としてきましたが、新潟大学では「世界経済史」を担当させていただいたため、しばしば本来の専門を離れて広く様々な観点からの世界諸地域の社会経済史の研究に触れる機会がありました。大学の同僚からも大いに知的刺激を受けることができました。大学に学問があるのではなく、学問のあるところに大学があるという言葉があります。私の研究はまだ道半ばですが、退職後も体力が許す限り、研究を続けたいと思っています。新潟県は私が高校まで生活した故郷の地でした。教育と研究の場を与えてくれた大学に感謝するとともに、皆様のご活躍をお祈りしています。



准教授
新川 公
NIIKAWA Isao

明るく、自由な新潟大学

私は35年前に旧教養部に赴任し、教養部廃止に伴って理学部へ移籍しました。定年退職まで研究者として続けられたのは旧教養部、理学部ともに非常に自由な研究環境があったことだと思っています。私の研究分野は地質学という地球の過去に関するもので、その中でも古生物学分野で、皆さんには化石を研究しているといえbaumかってもらえるでしょうか。従って、この分野では野外(フィールド)に出て調査するため、非常に時間と労力がかかりますので、自由な研究環境がなければ成り立ちません。しかし、大学法人化以後、新潟大学のこの自由な研究・教育環境が悪化していると感じざるを得ません。大学を取り巻く情勢が厳しいとはいえ、大学を去るものとして、これからも新潟大学の明るく、自由な環境が続くように願っております。



教授
山本 正信
YAMAMOTO Masanobu

志を立てよう

私事です、子供のころ家の近くに西洋館があった。人の住む気配はなくお化け屋敷と呼んでいた。この歳になって気になりだしたので調べてみると、古川薫氏の小説「海と西洋館」に顛末が記されていた。なんでも、戦前に海運業で財を成した地元の実業家が、英国人の建築家に依頼したものだそう。同時に、彼は中国の革命家孫文の志に惚れ込み、巨額の私財を投じて支援をしていた。しかし、世界大恐慌に襲われ破産し、支援は途絶え西洋館は未完のまま廃墟となってしまった。

さて、孫文の評価はともかく、やはり志を持つ人は強い。若い人は、小さくても志をそれ多くの人が賛同する志を立ててもらいたい。あるいは、そのような志を持つ人に賭けても良い。



教授
大坪 研一
OTSUBO Kenichi

美しい新潟の四季

本年3月末をもちまして、新潟大学農学部を定年退職させて頂く大坪です。新潟大学の教職員の皆様、学生諸君に大変お世話になりまして有り難うございました。私にとりまして、新潟は、まさに「第二の故郷」となりました。新潟は、四季折々の季節ごとの美しさの中で、コシヒカリを始め、海の幸、山の幸を味わうことができ、淡麗辛口の日本酒もあります。農学部の校舎から眺める、佐渡に沈む夕日のすばらしさはたえようありません。学生諸君にとって、このキャンパスで学び、活動したことが一生の誇りと良き思い出になることと思います。新潟大学の皆様のますますのご多幸とご健康とをお祈り申し上げまして、私の退職の挨拶とさせていただきます。



教授
川邊 洋
KAWABE Hiroshi

新潟大学を退職するにあたり

平成14年1月に新潟大学に赴任してから、14年余りが過ぎようとしています。36年強にわたる大学教員生活の最後の1/3を新潟大学でお世話になりました。崩壊など自然災害のメカニズムについて研究してきましたが、新潟大学には同様の分野の先生方が沢山おられ、様々な刺激を受けて、充実した大学生活を送ることができました。

時代がどんなに変わっても、大学生の本分が勉強であることに変わりはありません。在学中の皆さんは、何らかの志を持って大学を目指し入学したはずです。試験の点数に一喜一憂するような目先のことに囚われず、がむしゃらに勉強に打ち込んでください。それができるのは若いうちだけです。年とともに、体力的にも精神的にも社会的立場からも、何かに打ち込むことが難しくなり、若い頃の貯金がものをいうようになります。この貯金がなければ、社会に出てから志を果たすことができないでしょう。皆さんのご活躍を祈念しています。



教授
高橋 益廣
TAKAHASHI Masuhiro

新潟大学を離れるにあたって

新潟大学卒業以来、米国留学の2年間と内科研修および関連病院出張の2年間を除き、36年間新潟大学に在職させて頂きました。第1内科(現:血液・内分泌・代謝内科&循環器内科)に入局し、血液学を専攻しました。当時骨髓移植のメッカであったフレッド・ハッチンソン癌研究所(シアトル、米国)に留学し、骨髓移植に関する基礎と臨床を学ぶことができました。帰国後10年位して第1内科から医療技術短期大学部(現:医学部保健学科)に移り、樹状細胞、腫瘍免疫学、腫瘍免疫療法等の研究を継続することができました。「自分のできることを、自分のできる範囲で、今いる場所で行う。」というスタンスで今日まで教育と臨床それに研究をやってきました。皆さんと新潟大学の今後の活躍と発展を祈念して新潟大学を離れる挨拶とさせていただきます。



教授
織田 公光
ODA Kimimitsu

退任のごあいさつ

歯学部に教授として赴任したのは1993年の2月でした。以来23年間を過ごしました。もともと九州の出身で、長崎大学薬学部(大先輩にノーベル賞を受賞した下村脩先生がいます)を卒業後、九州大学の薬学研究科に進みました。その後福岡大学医学部での14年間の勤務を経て新潟に来ました。

専門は生化学で、ゴルジ装置を中心とした細胞内輸送の研究をしていましたが、歯学部に移ったのを機に骨や歯の遺伝疾患である低ホスファターゼ症の発症メカニズムの解析に仕事の大半を費やして来ました。生物学はまだまだわからないことが多く、研究者は「The Blind Men and the Elephant」の格言を念頭に置き、謙虚な取り組みが求められると自戒を込めて思っています。



教授
朔 敬
SAKU Takashi

回首二十五年

新潟大学には1990年12月に長崎大学から赴任しましたので、25年・四半世紀にわたって奉職したことになります。この間、歯学部ははじめ各学部の先生方のご指導をえて、専門の口腔病理学を勉強しながら、多くの歯学部卒業生・歯科医師と博士と口腔病理専門医をそれぞれおくりだすことができました。1976年に大学を卒業したときに、大学人としてその後の人生をおくるとはかんがえてもいませんでした。人生の岐路でひとつの道をえらぶと元にもどることはできず、どう展開していくかは予測ができないということでしょう。選択した進路で恩師と友人との出会いがあり、そのご支援のもとに、あたえられた環境で精一杯つとめることができたわけですので、幸福なアカデミックライフだったとおもいかえています。ご厚誼いただいた皆さんに感謝申しあげるとともに今後一層のご活躍を祈念し、新潟大学がたゆまず発展していくことを期待しています。



教授
津田 純子
TSUDA Sumiko

「思い込み」に気づき、自分の可能性を育てよう

私は14年前新潟大学大学教育研究開発センター(当時)に着任し、国内外の先進的動向を調査しながら、効果的な学修・授業改善の支援に取り組んできました。学生の能動的学習をねらいとする教授方法を追究することは、研究重視であった私を教育重視の教員に決定的に転換させました。約26年の教員人生(非常勤講師も含む)の中で、最も気づきの多い14年間でした。これも、周りの教職員の皆さんの温かい協力や受講生の叱咤激励があったからこそでした。今見えてきた可能性もあり、追究し続けるつもりです。新大は、「自立した創造的な学習者を育てる」を理念としその達成のために、新大生の皆さんに授業内・外で様々なチャンスを提供できるよう日々努めています。このチャンスを、アンテナを広げて見落とさないでください!そこは、自分に関する「思い込み」に気づき、可能性が発見できる場となるはずです。そこには、弱気になった時励まし合える、いろいろな人との出会いが待っています。

卒業生と在学生とをつなぐ

新潟大学キャリアセンター

CANシステム



社会の先輩としての
アドバイスを
学生にお聞かせください!

『CANシステム』は、在学生が卒業生に就職活動の相談ができ、また卒業生の方からも在学生へ社会の現状や、働くことのやりがいなど、生の声を伝えられるシステムです。先輩からのアドバイスは、様々な悩みや不安を抱えながら就職活動に取り組む後輩たちには、心強い支援になります。

ご登録方法

登録はとてもカンタン!
個人情報は公開されません。



新潟大学 CANシステム 検索

新規登録はこちら

<http://www.career-center.niigata-u.ac.jp/jobnetwork/>

STEP 1 協力依頼・利用規約同意画面
新規登録から利用規約同意画面へ。

STEP 2 入力画面
フォームに必要事項を入力。
公開可能な項目は、任意で選択可能。



STEP 3 確認画面
入力情報を確認後、「送信する」ボタンをクリック。

STEP 4 登録完了
ご指定のメールアドレスに確認メールが届き、登録完了。
※キャリアセンターにて登録内容を確認させていただきますので、登録完了・公開までに数日かかる場合があります。

質問・相談メールをお待ちください。

ご登録後の流れ

学生からの質問・相談メールに、
システムを通じて返答します。

活用具体例

- 会社・仕事・職種についての具体的な質問
- キャリア形成に関する質問やアドバイス

学 生

CANシステム上に公開されている
OB・OGの情報をもとに、システムを
通じてOB・OGへメッセージ送信。



学生は卒業生の一覧画面を見て、
質問したい先輩を選びます。



CANシステムを通
じて、OB・OGから
の返信を受信。



1



2



3

返信メッセージを
CANシステムへ返信。



CANシステムのフォームを使って
メッセージをやりとりします。

CANシステムを通
じて、学生からメッ
セージ送信。



2

OB・OGの皆様

CANシステム

※お互いの個人情報(氏名・メールアドレス等)を公開せずに安心してご利用いただけます。

卒業生の皆さん、本システムの趣旨をご理解いただき、ぜひご登録をお願いします!

ご不明な点はキャリアセンターまでお問い合わせください

新潟大学 教育・学生支援機構キャリアセンター

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地 TEL:025-262-6087

E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

URL: <http://www.career-center.niigata-u.ac.jp/>

卒業生と大学とをつなぐ

新潟大学附属図書館は、地域社会に開かれた大学図書館として、卒業生・一般市民の皆さまにもご利用いただけます!

卒業後も大学図書館を利用できます!

利用できるサービス

- 1 館内に配架されている図書や雑誌の閲覧
- 2 中央図書館・医歯学図書館共通の図書館
利用カードの発行
- 3 図書の貸出
- 4 館内資料の複写
- 5 資料の検索、調査方法の相談 など

5冊14日以内。
新大カード会員なら
10冊14日以内で図書を
借りることができます。

※その他詳細については、ホームページなどでご確認ください。



中央図書館1階の「インフォメーションラウンジ」は、学生・卒業生・地域住民・教職員の皆さんが気軽に立ち寄り、交流できる場所となっています。学内の教育研究活動のポスター展示も随時開催しています。また、講演会なども行われる「ライブラリーホール」が新設され、明るく開放的な空間となっています。ぜひ、卒業後も大学図書館にお気軽にお立ち寄りください!



【新潟大学附属図書館HP】
<http://www.lib.niigata-u.ac.jp/>

【五十嵐地区】
新潟大学附属図書館 中央図書館
TEL:025-262-6221
E-mail:etsu@lib.niigata-u.ac.jp

【旭町地区】
新潟大学附属図書館 医歯学図書館
TEL:025-227-0694
E-mail:b-serv@lib.niigata-u.ac.jp

卒業/修了後も大学のメールを利用できます!

新潟大学 卒業/修了生向けメールサービス

卒業/修了すると在学時に利用していたメールアドレス(在籍番号@mail.cc.niigata-u.ac.jp)が使えなくなります。

「卒業/修了生用メールアドレス」を取得すると
卒業/修了してもずっと使えます。

卒業/修了生用アドレス 在籍番号@**alumni.niigata-u.ac.jp**

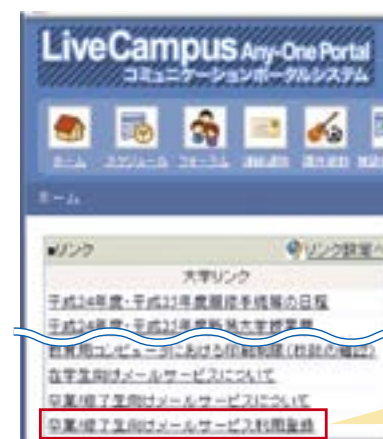
アカウントの一部が変わります

利用・登録方法

卒業/修了が決まったら、
学務情報システムポータル大学の大学リンクから
**卒業/修了生向け
メールサービス利用登録へアクセス**

→登録後、
新しいアドレスが発行されます。

※3月中旬から3月末までに在学生用アドレスに届いた
メールは、卒業/修了生用アドレスに転送されます。





新潟大学全学同窓会



全学同窓会 多和田孝雄会長インタビュー

伝統ある各学部同窓会の枠を超えて連携・協力を図るため、平成18年に全学同窓会は設立され、平成27年に10周年を迎えました。会長の多和田孝雄さんに全学同窓会の活動について伺いました。

全学同窓会の理念や目標について教えてください。

「新潟大学の発展と社会への貢献に資するとともに、会員相互の交流と連携及び親睦を図る」という目標があります。加えて、同窓会員へのサービスを充実し、かつ母校をサポートする最強の応援団となるために、私は「会員一人ひとりと心の繋がる同窓会づくり」、「会員にメリットのある同窓会づくり」、「母校を支援できる同窓会づくり」をスローガンに掲げております。

全学同窓会の活動や事業について教えてください。

学生さんに関係する事業として、「雪華支援事業」があります。全学的な学生生活に年間総額300～350万円程度の支援を行っています。運動部等が利用する筋トレ設備更新のため、平成24年度に

は大学に対して1000万円を寄付し、平成27年度にも1000万円を寄付しました。卒業生の希望者には入会費・年会費無料のクレジットカード「新潟大学カード」も発行していますので、卒業を機に是非ご入会ください。

学生、卒業生に一言お願いいたします。

母校が全国有数の誇らしい大学となるには、教職員や学生諸君の活躍もさることながら、卒業生の社会での活躍も重要で、卒業生一人ひとりからの小さな支援が全学同窓会を通じて大きな力となり、母校を支えることにつながります。皆さんも卒業後は同窓会との連絡を絶やさず、全国にいる14万人の卒業生の仲間になってください。

卒業したら...

新潟大学カードに入会しよう!

新潟大学カードはVISA付きの国際カード
入会費・年会費無料
ご利用金額に応じてポイントがたまる

特典

- 国内・海外旅行傷害保険 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額200万円
- 空港ラウンジサービス

母校との絆をいつもポケットに!

新潟大学カードに関するお問い合わせは...

新潟大学全学同窓会事務局

Tel 025-262-7891 (受付時間 平日10:00～15:00)

E-mail: n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

【新潟大学全学同窓会HP】

<http://www.niigata-u.ac.jp/dousoukai/index.html>

【新潟大学全学同窓会事務局】

TEL: 025-262-7891 (受付時間 平日10:00～15:00)

FAX: 025-262-7892

E-mail: dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp

「新潟大学基金」にご協力ください

「新潟大学基金」は、皆様からのご寄附を基に、学生の修学支援や、国際交流活動など、魅力ある大学づくりのために以下のような事業に活用しています。

輝け未来!!
新潟大学入学
応援奨学金の支援

最新の
ウェイトトレーニング
機器導入の支援

旭町地区
課外活動施設整備
の支援

国際交流活動
の支援

附属図書館の
設備整備の支援

医歯学総合病院
の支援

この他にも各種事業への支援を行っています。これらの事業を継続的にしていくためにも、皆様のご理解とご支援をお願いします。なお、ご寄附をいただいた場合、税法上の優遇措置が受けられるほか、本学独自の特典も用意しております。詳しくは、「新潟大学基金ホームページ」をご覧ください。

【新潟大学基金HP】 <http://www.niigata-u.ac.jp/kikin/index.html>

【お問い合わせ先】 新大サポーター連携推進室

TEL: 025-262-5651・6010 (受付時間 平日9:00～17:00) FAX: 025-262-7796

E-mail: kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

■ 学長と奨学金受給者との懇談会

奨学金受給者からの声

大学は高校と違い方言などの文化の違いに驚いています。更に留學生も数多くいて大学というのは本当に多文化な所だなと実感しました。私は今、ハンドボール部に所属して高校の時よりも高いレベルの部活動に辛さを感じながらも日々練習に汗を流しています。最初の頃は部活は練習も厳しく、時間も多くとられ、勉強との両立が難しくなるものだと思っていました。しかし今はその辛さを共有できる新入部員の友達や、色々と励ましてくれる先輩方が沢山いて入部して良かったなと思っています。



先輩受給者からの声

私も3年前、今の皆さんと同じようにこの懇談会に参加していました。当時の学長から「様々なことにチャレンジする大学生活を送ってください。」というようなお話を頂きました。ここにいる皆さんは、高校生の頃からひたむきに努力出来る強い意志をもった方達ばかりだと思います。ぜひこの4年間で多くの事を学び、人間関係を広げられるような大学生活を送ってください。



■ 旭町サークル共用施設完成予想図

建設費の一部は新潟大学基金を活用し、平成28年3月に完成の予定。完成後は筋力トレーニング機器の導入経費の支援も行います。

【新大広報 Back Number】http://www.niigata-u.ac.jp/profile1/100_pamph/shindai_kouhou.html

新大広報のバックナンバーは上記のURLから閲覧することができます。また、学務部学生支援課で受け取ることもできます。

2016年卒業記念号 [No.198]

新潟大学
ホームページ

<http://www.niigata-u.ac.jp/>

編集・発行／新潟大学学務部・新潟大学広報室 印刷／(株)第一印刷所

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。